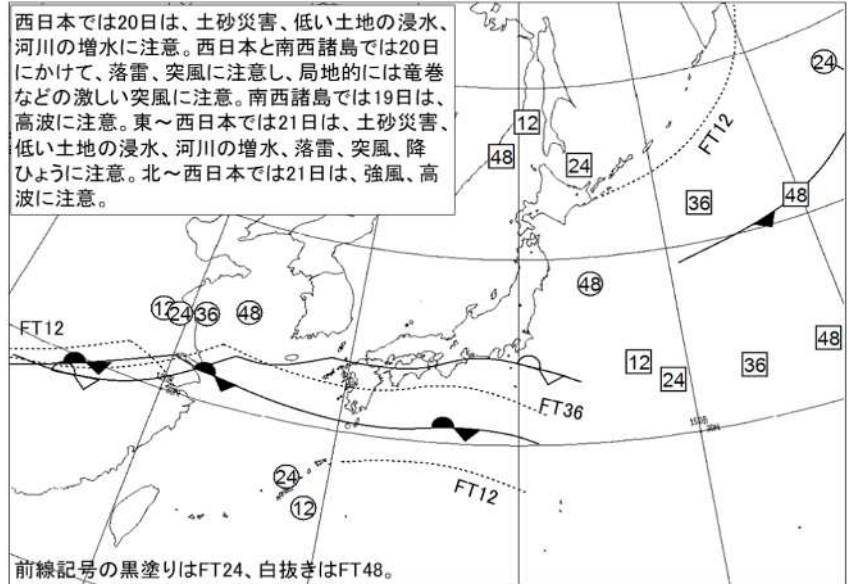


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m以下の切離低気圧に対応した南西諸島付近の地上の低気圧が北北西進。日本の南の前線がゆっくり北上。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大東島地方で発雷を検知。
- ② 日本の東の高気圧が東へ移動。
- ③ カムチャツカ半島付近の前線を伴う低気圧が東北東進。前線が北海道付近へのびている。
- ④ 500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応した華中の前線がのびている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の南西諸島付近の低気圧は19日夜にかけて沖縄本島地方付近へ進み、その後、不明瞭化する。1項①の日本の南の前線は、1項④の華中の前線と一体となり、20日夜にかけて華中から西日本を通り、東日本太平洋側沿岸付近へのびる。前線や低気圧に向かう850hPa 相当温位 336K以上の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨の降る所がある。西日本では20日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。西日本と南西諸島では20日にかけて、落雷、突風に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。19日は1項②の高気圧に覆われ、広い範囲で晴れて北～西日本では真夏日となる所がある。19日は、熱中症などの健康管理に留意。高気圧は20日夜にかけて日本のはるか東へ移動し、次第に日本から遠ざかる。高気圧縁辺での吹送距離、吹続時間の長い東寄りのやや強い風の影響で、波が高くなる所がある。南西諸島では19日は、高波に注意。1項③のカムチャツカ半島付近の低気圧からのびる前線は日本のはるか東に遠ざかる。
- ② 21日は、九州西方海上で2項①の華中から日本の東へのびる前線上に低気圧が発生し、西日本へ東進後、不明瞭化。日本の東で前線上に低気圧が発生し東北東進。500hPa 5700m付近のトラフに対応した低気圧が、21日に日本海西部で発生し東進。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。東～西日本では21日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風、降ひょうに注意。21日は、高気圧が中国東北区から北海道付近へ移動し、日本の東や日本海西部の低気圧と高気圧との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北～西日本では21日は、強風、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①、②の前線の位置や降水域の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間) : 多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで) : 高い所(3m以上)はない。③ 高潮(明日まで) : 大潮の時期。東～西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。